

発表要旨

接続詞 **that** の現れる位置と省略可能性について

田村 惇

学校文法において接続詞 **that** は一般的に省略可能であるとされている。例えば、**I think that Tom likes Mary.**のような文は **that** を省略し、**I think Tom likes Mary.**とすることが可能である。しかしながら、この **that** は常に省略可能というわけではない。**that** は動詞の補部 (**I think that**)、形容詞の補部 (**I am sure that**)、主語の位置 (**That he's awake is**) などに現れ、同格節 (**the proof that**) を導く場合にも用いられるが、これらの現れる位置に応じて省略できるかどうかが決まっており、一貫した規則性を示す。この事実は学校文法ではほとんど言及されず、**that** であれば所かまわず省略できるような印象を与えてしまいかねない。本発表では理論言語学で補文標識と呼ばれる **that** が現れる位置を確認し、その省略可能性について理論言語学の知見を紹介する。

洋楽 (*Can't Take My Eyes off You*) の歌詞を使った授業報告

奥井 裕

学生が殆どが知っている、少なくとも聞いたことはある *Can't Take My Eyes off You* を用いて、この単純なラブソングから、学ぶべき英語の諸要素をどこまで引き出せるかを授業報告の形で示してみたい。歌詞を順を追って読みながら、以下のように進めていく予定である。

1. 直訳では意味がよくわからない。(You're just too good to be true.)
2. 同じ文でも状況次第で意味が変わる。(That's too good to be true.)
3. Off と of (I can't take my eyes off of you.)
4. 英語と日本語の単語は意味的に1対1で対応するものではない。
5. 言葉のロマンス。語源の話。(Love has arrived.)
6. 文脈の重要性。(I thank God I'm alive.)
7. 和訳よりも英語で言い換えをさせたい例。(Nothing else to compare.)
8. 学生が苦手とする構文。(The thought of you leaves me weak.)
9. 類語の問題。(Trust in me when I say.)
10. 音声の問題。(詩は楽しいもの。気持ちの良いもの。)